




「二十歳を迎えた私の故郷への想い」

家の前の坂を下れば、青々とした鳴門海峡が広がり、小学校に通うと、窓から聳え立つ妙見山の木々が見えました。私は鳴門市の美しい自然によって育てられてきたのだと、故郷を出て二十歳を迎えた今、改めて感じます。

幼少期から私は都会への強い憧れを抱いていました。もっと外の世界を見てみたいと思い、高校一年生の冬に、自分のルーツでもあるアメリカに留学することを決めました。


二〇二〇年一月、そんな私の希望に満ちた心を裏切るように、コロナウイルスは瞬く間に大流行しました。留学どころか高校も休校になり、友達に会うこともできず、家で一人過ごす毎日でした。あの時の喪失感はいまでも忘れられません。


しかし、ずっと落ち込んでいるわけにもいかな



い、限られた高校生活の中で、今この場所でできる最大限のことをしようと思えました。その後、県内で開催される課外活動に積極的に参加し、色々な場所に飛び込むようになりました。そして、私の中の転機となったのが、高校生向けの徳島を巡るスタディツアーです。徳島には沢山の美しい場所や、地域のために活動する人々がいることを知り、誇りに思いました。同時に、少子高齢化や過疎化が進む地元を盛り上げたいという想いが芽生えました。高校が再開してからは、地域活性化のための活動に夢中で取り組みました。徳島を愛して活動に取り組む多くの人々に出会い、私自身も活性化するためのアイデアを出し、様々なイベントに参加しました。

コロナで留学に行けなくなったり、修学旅行に行けなくなったりと、苦い思い出は沢山あります。しかしその期間があったからこそ、徳島の魅力を知り、沢山の人々に出会うことができました。み






んなが思い描くようなキラキラした高校生活は送れなかったけれど、あの時間は間違いなく私にとっての青春でした。そして私には、「将来、地元徳島を活性化する仕事に携わりたい」という夢ができました。

私は現在、その夢を実現させるべく、県外の大学で「まちづくり」について学んでいます。高校生の時に出会った本で知った教授のゼミで、日々多くの学びを得ています。

一度徳島の外に出て、卒業後はその学びを地元に戻元したいと考えています。

今、この美しい町で暮らしている人々、これからこのまちに育てられていく子どもたちが幸せであり続けるためにも、私はこの鳴門市が賑わい続けてほしいと思っています。これからは、地域に根付いた活動をし、かつ、世界規模の視野で物事を考えられるグローバルな人間が、地域を守り変えられる時代だと思います。私は、残りの大学



生活で、できる限り多くの環境に飛び込み、沢山の
の人々に出会い、学びを得たいと思っています。
二年後、社会人となって新たなステージで活躍し
ている自分の姿が楽しみです。

最後に、鳴門で出会った友達、ここまで育てて
くれた家族、そしてこの美しい町にありがとうを
伝えたいです。

